

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年9月26日(水) 5校時
学 級 久慈市立侍浜小学校第4学年25名
授 業 者 小室 圭稔(久慈市立侍浜小学校)
共同研究者 豊川 浩子(久慈市立久慈小学校)

1 単元名 読んで考えたことを交流しよう「ごんぎつね」(光村図書4年下)

2 単元について

(1) 児童について

本教材は、第3学年及び第4学年の国語科「読むこと」の指導事項ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」が学習の中心となる。これを受けて、児童はこれまで文学的な文章「白いぼうし」を読み取る活動において、各場面の様子に気をつけ、会話や行動から登場人物の心情について読み取ることはできるようになってきた。また、「一つの花」を読み取る活動において、物語の題名や画の設定、場面の比較から作者の思いを想像しながら読み取りを進め、平和について関係した本を読んで考え友達と話し合うことができた。

しかし、場面の移り変わりや展開に沿って登場人物の気持ちの変化を読み取ったり、情景を関連させて読んだりすることは難しい。これは、場面と場面を関係付けて読ませたり、登場人物の性格や登場人物同士の関係を考えさせたりする指導が不十分なためであると考えられる。また、読書量を見ると全体的に増えてきているが個人差が大きくなってきている。これは、読書に対する関心を高める場の設定の工夫が不十分であることが原因と考える。

そこで、文章全体の中で各場面がもつ役割や登場人物の気持ちの変化、情景描写の仕方との関連を考えさせる指導が必要である。また、物語を読ませる上で読む目的を明確にしたり、主体的に読む活動を位置づけたりしながら、読書意欲を高めさせていくことが重要と考える。

(2) 教材について

本教材は、6つの場面を明確に分けてある。そして、各場面は「いたずらばかりするごん」「後悔するごん」「償いをするごん」「期待しがっかりするごん」というように第5場面まではごんの気持ちの変化がわかりやすく描かれている。第6場面だけは兵十に視点を当てて、兵十とごんの心の通い合いを描いているが、そのことが悲しい結末を強調している。情景描写については、遠景や近景、全体から部分、色の対比などが効果的に使われており、登場人物の気持ちと関わりをもたせる表現が多く見られる。

これらのことから、本教材は登場人物の気持ちが場面の展開に沿って変化していることや気持ちと情景描写の関わりを考えさせながら読み取らせる活動に適している。

(3) 指導に当たって

本単元では、「読書新聞」を作成する活動によって、物語の場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読める力を身につけさせたい。

「読書新聞」とは、自分の読んだ物語を新聞の形式で紹介するものである。この新聞は、「物語の概要」「登場人物の紹介」「見どころ」「物語の場の設定」といった読み進めるときの視点が記事の内容となる。また、絵や図、グラフ(心情曲線)などを活用することで物語を具体的に紹介できる。さらに、お気に入りの本を紹介する際の機能性も考えられる。

しかし、記事に物語の内容を網羅しようとする、活動に抵抗を示したり、作業的になるため意欲が減退したりすることが予想される。そこで、以下の3つの段階によって児童の意

欲を引き出し、主体的に文章に向かわせ、活動の達成感を味わわせたい。

単元を貫く言語活動：自分のお気に入りの本を題材に読書新聞をつくる	
段階	活 動 内 容
一次	既習の物語の読書新聞を提示し、単元の見通しをもたせ、並行読書してきた本で新聞を作るという目標をもたせる。
二次	教材文「ごんぎつね」を視点に沿って読み、読み取ったことが記事になっていくことを体験させる。視点例は以下の通り。 ・あらすじ ・登場人物紹介 ・場の設定 ・山場の紹介 ・物語の感想
三次	「ごんぎつね」で作った新聞の視点を基に記事にする視点を選ばせ、紹介したい本についての読書新聞を作る。

なお、この活動に取り組ませることは、読み取りの仕方を学ぶだけでなく、一度読んだ本でも再読することで新たなおもしろさがあることに気づかせたり、読書の広がりをもたせたりするものとする。

3 単元の目標

- (1) 紹介したい本を説明するために繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなおもしろさに気づいたりしながら読もうとすることができる。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 自分が選んだ本のおもしろさを新聞で説明するために、場面の移り変わりの印象的などころや主人公の性格や気持ちの変化、情景を想像して読むことができる。(読むことウ)
- (3) 登場人物の会話や情景を表す言葉に考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいて文や文章を読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア))

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
紹介したい本を説明するために、本を繰り返して読むなどして、改めて味わったり、新たなおもしろさに気づいたりしながら読もうとしている。	場面の移り変わりの印象的などころや主人公の性格や気持ちの変化、情景を想像して読んでいる。(ウ)	登場人物の会話や情景を表す言葉に考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいて文や文章を読んでいる。(イ(ア))

5 単元指導計画 (全14時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	学習過程における評価規準と評価方法
一	1	・教材文を読み、感想を書く。	・狐のイメージマップを作らせ、教材文のきつねへの関心をもたせる。	【関】教材の心がひかれることを中心に感想を書いている。(ノート)
	2	・前時の感想を交流し、読書新聞づくりの見通しをもつ。	・児童の感想をもとに、物語を読む視点を示し、視点が読書新聞の見出しになることをとらえさせる。	【関】感想を述べたり、感じ方の共通点や違いに気づいたりしながら読もうとしている。(発表)
二	3	・ごんぎつねの6つの場面を短くまとめる。	・ごんがしたことや見たことから場面ごとに小見出しを考えさせる。	【読】場面の移り変わりとともにごんの行動の変化を読み取っている。(ノート)

5 本 時	4	・ごんと兵十の村の地図を作る。	・物語に出てくる場所や植物などの環境を表す言葉を探させ、物語の場の設定を考えさせる。	【読】場面ごとの情景と登場人物の気持ちを想像しながら読み取っている。 (ノート)
	5	・ごんのプロフィールをつくる。	・ごんの行動や心内語から性格、人物像を想像させる。	【読】ごんの行動や心内語からごんの人物像を読み取っている。(発表、ノート)
	6	・兵十のプロフィールをつくる。	・兵十の人間関係からごんととの接点や共通点を考えさせる。	【読】兵十とごんの変化を読み取っている。(ノート)
	7	・クライマックスを読み取る。	・兵十の行動から気持ちの変化した部分を見つけさせる。	【読】兵十のごんに対する見方の変化を読み取っている。(ノート)
	8	・ごんの変化を読み取る。	・ごんと兵十の変化を場面の展開に沿って心情曲線をもとに考えさせる。	【読】展開とともにごんと兵十の関係が変化していることを読み取っている。 (ノート)
	9	・物語の他の視点を知る。	・新聞の記事として編集後記やインタビューなど、他の見出しを示し、記事の内容を考えさせる。	【読】ごんぎつねの感想や想像したことを発表している。(発表)
	10 ・ 11	・新聞の割り付けとあらすじ紹介部分、記事の見出しを作る。	・物語の中の出来事を書き出させ、場面を分けさせる。 ・同じ本を選んだグループで確かめさせ、あらすじと見出しの妥当性を図る。	【読】選んだ本の内容や構成を見出しやあらすじに書いている。(話し合いの様子、新聞の見出しの付け方)
	12 ・ 13	・記事を書く。	・書けそうな見出し(視点)を選ばせてから書かせる。	【読】登場人物の性格や気持ちの変化を説明したり、情景描写を引用したりしながらまとめている。(記事の記述) 【言】選んだ物語の会話や情景を表す言葉に考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいてを読んでいる。(記事の記述)
	14	・友達の新聞を読み感想を交流する。	・自分の選んだ作品と比べて登場人物の性格、話の展開、場の設定などの視点の共通点や相違点を考えさせる。 ・読んでみたい物語や再読したい物語を考えさせる。	【関】友達が紹介した本を進んで読もうとしている。 (感想シート)

6 本時の展開 (5 / 14)

(1) 目標

○ごんの行動や心内語からごんの人物像を読み取ることができる。

(2) 評価規準

○いたずらをするごんとつぐないをするごんの人物像のつながりについて、ごんのおかれている環境の設定や兵十との関係から読み取っている。(読むことウ)

(3) 本時の展開

段階	学習活動 ○発問 ・指示	・指導上の留意点 【】は評価
導入	1 前時の想起	・前時にまとめた新聞の記事と、本時で作る記事の視点を確認させる。
5分	2 課題の把握 ごんのプロフィールをまとめよう。	・既習の教材に出てくる登場人物のプロフィールを提示して、完成図を想像させる。 ・ごんのプロフィールのまとめ方を知らせる。
展開	3 一斉黙読	・初発の感想をもとに「さびしいきつね」「いたずらするきつね」「やさしいきつね」「かわいそうなきつね」の視点を意識させた上で、設定した時間まで全体を読ませる。 ・プロフィールに関わりそうな箇所に印をつけるとノートに書くときに便利であることを知らせる。
35分	4 一人学び ・ごんのことのでわかったことを書き込みましょう。	・感想をもとに提示したごんの性格や特徴、状況の視点に合わせてごん的生活環境や行動、心内語をノートに書き出させる。 ・何ページの何行目からわかったかをプロフィールの内容につけさせる。
	5 学び合い ・書き込んだことを発表しましょう。 ○ごんはどんなきつねだと思いますか。	・友達の発表で必要だと思うところやよいところを書き加えさせる。 ・いたずらばかりする部分や兵十を思いやるやさしい部分、さびしい気持ちの部分のつながりについてグループで交流させる。
	6 まとめ [児童のまとめ例] ごんはいたずらをする悪いきつねだけど、兵十を思いやるやさしい気持ちもあるきつねだ。いたずらはひとりぼっちでさびしいからかもしれない。そう考えるとかわいそうなきつねだと思う。	・プロフィールに書き出した内容と結びつけながら考えさせる。 【読】いたずらをするごんとつぐないをするごんの人物像のつながりについて、ごんのおかれている環境の設定や兵十との関係から読み取っている。(ノート)
終末	7 次時の確認	・兵十のプロフィールを記事にすることを確かめさせる。
5分	8 ふりかえり	・3文で書かせる。(今日の活動、できたことやわかったこと、次がんばりたいこと)

(4) 板書計画

